

## 平成30年度事業運営方針

交通局では、平成29年度から31年度までを期間とする「第二次鹿児島市交通事業経営健全化計画」に基づき、引き続き経営改善に取り組んでおります。経営の状況について、収入面では、経営の根幹である乗車料収入について、交通手段の多様化や少子高齢化の進行、民間バス事業者との競争激化などにより、軌道事業においてはほぼ横ばいであるものの、自動車運送事業においては減少傾向が続いています。一方、費用面では、経費削減に努めていますが、局施設リニューアル事業に係る減価償却費の増加や、新施設の維持管理経費など新たな負担が生じています。また、資金状況も平成28年度に実施した交通局跡地売却により一時的に好転しましたが、今後も経常収支の赤字が見込まれるなど、これまでと同様に厳しい状況が続くものと考えられます。

自動車運送事業の抜本の見直しについては、交通事業経営審議会に諮問し、「市営バスの廃止は市民生活に与える影響が大きいことから、将来的に軌道事業と合わせた交通事業全体の収支均衡が図られ、事業継続が可能となるよう経営改善を図るべきであり、民間事業者へ一部路線を移譲して、人員・車両も含め事業規模を縮小する抜本的な見直しに取り組むべき」との答申がなされました。このような状況の中、平成30年度は、引き続き、さらなる経営改善を着実に進めていく年と捉えています。

経営を取り巻く環境は、老朽化した車両、施設の更新や維持管理など更なる経費負担も見込まれており、依然として厳しい状況にあります。第二次経営健全化計画の目標達成に向け、重点取組項目である「安全・快適なサービスの提供」など各種施策に積極的に取り組み、交通事業の基本である安全輸送の確保と親切・丁寧な乗客サービスの提供に、これまで以上に努めるほか、とりわけ厳しい状況が予測されるバス事業について、交通事業経営審議会の答申を踏まえ、決定した局の方針に基づき、事業縮小に向けた具体案を作成して、民間事業者との協議を進め、交通事業全体として将来にわたり事業継続が可能となるような次期経営健全化計画の策定に向けて取り組んでまいります。

### 平成30年度の主な事業

#### ア 経営の効率化策や増収対策など

- (ア) 北・桜島営業所管内の路線に係る管理の受委託
- (イ) 夏休み子供乗車券（チャレンジパス）の販売
- (ウ) 貸切電車・バスの運行
- (エ) 低公害低床型バスの運行
- (オ) ゆーゆーフェスタの開催
- (カ) 観光レトロ電車の運行
- (キ) 交通局ふれあい推進事業
- (ク) 観光電車利用促進事業

#### イ 車両及び施設の整備

- (ア) 超低床電車購入事業（2両）
- (イ) ロケーションシステム等導入事業
- (ウ) 渡り線その他分岐器更換事業
- (エ) 明治維新150周年記念電車製作事業
- (オ) センターポール可動ブラケット改修事業
- (カ) き電線更新事業
- (キ) 貸切観光バス購入事業